

シンポジウム「比較中世文書論の構築をめざして」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 大阪市立大学日本史学会 公開日: 2022-08-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仁木, 宏 メールアドレス: 所属: 大阪市立大学
URL	https://doi.org/10.24544/ocu.20220823-016

Title	シンポジウム「比較中世文書論の構築をめざして」
Author	仁木, 宏
Citation	市大日本史. 25 巻, p.1-1.
Issue Date	2022-05
ISSN	1348-4508
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学日本史学会
Description	

Placed on: Osaka City University

シンポジウム 「比較中世文書論の構築をめざして」

大阪市立大学日本史学会第三三回大会は、二〇二一年五月一五日（土）、オンライン形式で実施された。

大会シンポジウムでは、高橋一樹さんにメインの御報告をお願いした。高橋さんは、後期博士課程から大阪市立大学に進学され、河音能平先生のもとで研鑽を積まれた。国立歴史民俗博物館などをへて、現在は明治大学で後進の指導にあたっておられる。『荘園制の成立・変質と鎌倉幕府』をテーマに大阪市立大学で学位を取得されたが、近年は、中世史料・中世文書の国際的な比較に精力的に取り組まれている。日本中世史研究者のなかで、この分野でもっとも国際的に活躍しておられる方である。

大会報告では、河音先生が晩年に取り組んでおられた比較史料論を前提に、それを継承・発展させるために比較中世文書論を追究すべきことを、具体的な中世文書の形式、形式の変化の基礎にある中世前半の国制のあり方などから報告いただいた。

コメントは、向井伸哉さんをお願いした。向井さんは、中世フランス農村の自治、共同体などが御専門で、トゥールーズ第二大学で学位を取得された。二〇一九年四月、イタリア中世史の大黒俊二先生の後任として、大阪市立大学に赴任された。大会では、高橋さんの御報告をうけて、フランスにおける「文書」の定義、公証のあり方、書簡型

文書と国制・王権の性格などを紹介いただき、中世日本との比較の視点を提起してくださった。

大会当日は、討論の時間が十分にはとれなかったが、おおよそ以下の三つの論点について簡単なディスカッションを行った。①高橋さんが、比較「史料」論ではなく、比較「文書」研究にこだわる意義、②公証の方法とその変化をめぐる、社会的権力のあり方、③書簡形式文書の展開。その社会的背景をめぐる日本と西欧の比較。

本大会の御報告・コメントが、今後の日本史研究、比較中世史研究の学問的展開における大きな糧となるよう期待している。

（文学研究科 仁木 宏）